// 巻　頭　言 //

日本ライトハウス
田邉　正明

電気代の高騰が著しい。関西電力の夜間の電気料金は45％も上がった。東京都は太陽光パネルの設置が一戸建ての新築には義務化されるという。太陽光発電はパネルを設置する広さと、日照時間が必要で、直流だから交流に変換する機材の設置も必要である。今までの発電所はすべてタービンを回すためのエネルギーが必要で、火力や原子力は水を沸騰させてその蒸気でタービンを回し、水力は水の高低差の位置エネルギーがタービンを回し、風力発電は風車を回す。その施設は巨大である。それにもかかわらず、脱炭素化ということでガソリン自動車から電気自動車へと世の中は変わっていく。

電気エネルギーは送電線さえあればどこにでも運べ、違う仕事をすることができ、電池があればためておくこともできる。AI（Artificial Intelligence：人工知能）は電気で動き、現代社会の根幹である。人間は火を使うことを覚え、エネルギーを手に入れた。そしてエネルギーは貨幣で買うこととなり、貨幣は人間の労働環境を一変させた。よりよい生活をえようとすると、貨幣を手に入れるために労働し、エネルギーを買う。エネルギーを生み出せる技術はいつの間にか政治的な野望の餌食となって、権力者に利用される。

貨幣は一人歩きし、数字だけで人々は一喜一憂している。人間は目の前のことだけしか分からないが、時間の流れで将来を予測し、行動を起こそうとしている。その判断はあとで評価され、善悪の有無は勝手に解釈される。

日本ライトハウスは今年100周年を迎える。視覚障害者のためにあらゆる工夫をおしまず、時には先進的な事業を興し、パイオニアとして注目を浴びることもあった。100年の年月はこれからの事業の基礎となり、現在はのちにどう評価されるか。あらたなエネルギーが生まれることを期待してこれからの100年を見ていきたい。